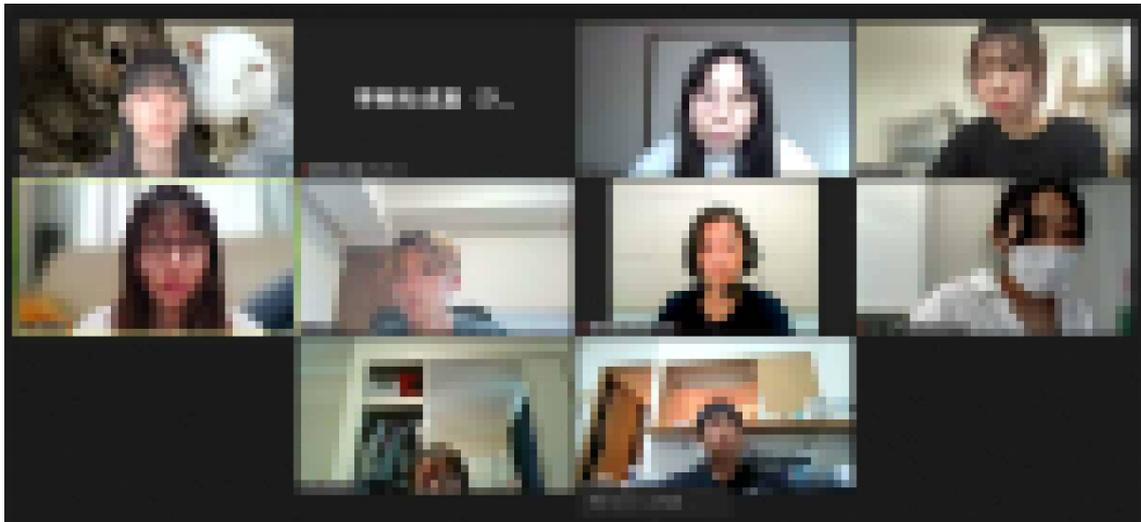


## オンラインワークショップ VOL2

北九州市の関係人口の拡大を目的に、首都圏の大学生を対象にしたイベント「**食品開発で北九州の魅力発見!!～マーケティング&SDGsを学んで、目指せ！商品化～**」の第2回ワークショップが9月1日(木)にオンラインで行われました。

この日、参加している学生たちは「レシピ考案決定と商品化（原価／販売価格／包装材等）」、そして「完成した商品の流通経路（直接販売 or 間接販売）、販売価格の決定、プロモーションの方法」の2つのテーマに取り組みました。

第1回のワークショップを終えた後も、各チームともしっかりと準備を重ねていた様子でした。どのチームも、メンバー間のコミュニケーションが前回よりスムーズになっているので、活発な意見交換が行われていました。



今回は、2日間のワークショップを終えた学生の中から、チームリーダー4名の感想を紹介します。

まず、本イベントに2年連続参加の中央大学2年生の渡部 航也（ワタナベ コウヤ）さんの感想を紹介します。

**Q. 昨年の「スイーツ開発で北九州の魅力発見!!～マーケティング&SDGsを学んで、目指せ！商品化～」に続いてこのイベントに参加した理由を教えてください**

昨年のワークショップに参加したときに、チームメイトとやりとりしながら商品を開発することで、自分自身の成長を感じました。就活に向け自分を高めていこうと思い、今回も参加させていただきました。

**Q. 本番の発表会に向け意気込みをお願いします**

チームメイトと一緒に商品を開発することを通して、北九州市の良さを理解しつつ、将来に向け自分を高められるようなワークショップにしたいと考えています。卒業後は地元で働きたいと考えており、今回の経験を活かしたいと思っています。

同じく中央大学の稲垣 寧々花（イナガキ ネネカ）さんの感想を紹介します。

**Q. 2度のワークショップを終えた感想をお聞かせください**

初回のワークショップではメンバーの意見がパラパラと出てくる状態で、これを形にできるのかなという不安もありましたが、2度目のワークショップで一気に形にすることができました。

**Q. 本番の発表会に向け意気込みをお願いします**

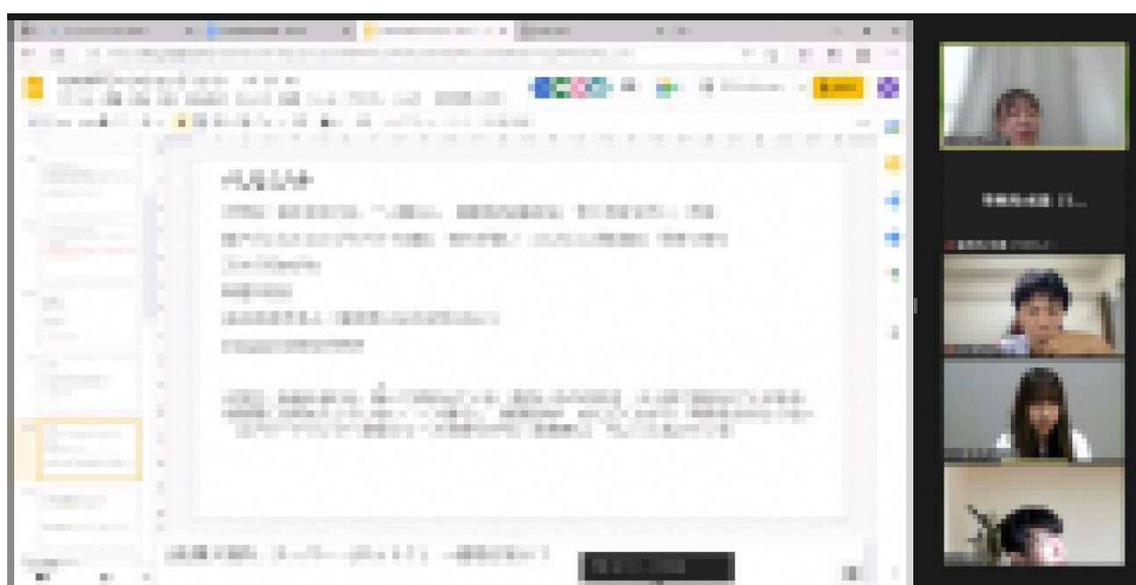
自分たちが考えた商品が、商品化されることを目標としています。

商品のコンセプトやストーリー性をしっかり伝えることで商品の魅力を伝えることができたらと考えています。

発表会本番でしっかりとアピールできるよう、パワーポイントでの資料作りも頑張ります。

**Q. 北九州市についてどんな印象を持ちましたか？**

「海の幸」と「山の幸」が電車で30分ぐらいの範囲で楽しめるのがうらやましいと思いました。また、自治体主導で食育活動を推進していることにも興味を持ちました。



続いて、[日本大学の川口 遥（カワグチ ハルカ）さん](#)の感想を紹介します。

**Q. 2度のワークショップを終えた感想をお聞かせください**

チーム内で意見がまとまるのかという不安もありましたが、2度目のワークショップで、ペルソナやコンセプト、商品名などを固めることができたので、素晴らしい商品ができるんじゃないかと思っています。

**Q. 本番の発表会に向け意気込みをお願いします**

チームメイトと打ち合わせを重ね、良い商品ができそうだなと感じています。優秀作品に選ばれるように頑張ります。

**Q. 北九州市についてどんな印象を持ちましたか？**

これまであまり印象はなかったのですが、今回ワークショップに参加して、食材、食文化が充実していることを知りました。

最後に、[明治大学の武居 克弥（タケイ カツヤ）さん](#)の感想を紹介します。

**Q. 2度のワークショップを終えた感想をお聞かせください**

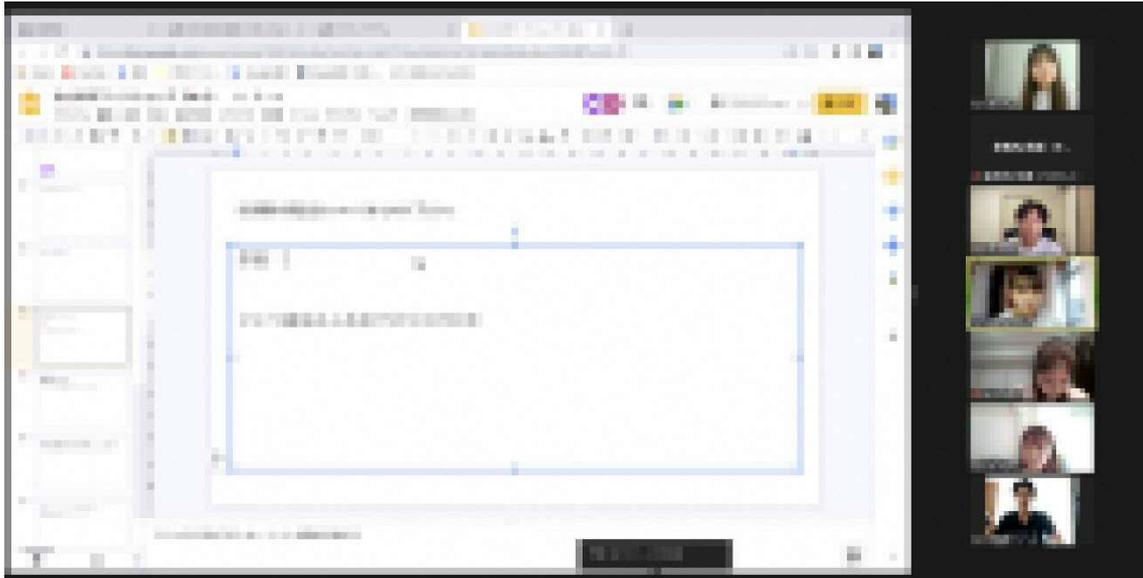
初回のワークショップでは、メンバーとの交流も進み、いろいろとすんなり決まりましたが、2度目のワークショップで、ペルソナや商品の中身が二転三転してしまいました。ただ、メンバー間で深く話し合うことができたので、より良い商品が作れるんじゃないかと思っています。

**Q. 本番の発表会に向け意気込みをお願いします**

イラスト担当、パワーポイント担当など、得意な分野を活かしながら分業ができているチームです。実際に商品が販売されるころまで想定しながら進めているので、ぜひ優秀賞を取って、実際に商品化されるように頑張りたいと思います。

**Q. 北九州市についてどんな印象を持ちましたか？**

北九州市では、行政が積極的にSDGsに取り組んでいるという話を聞き、活発な街だという印象を受けました。

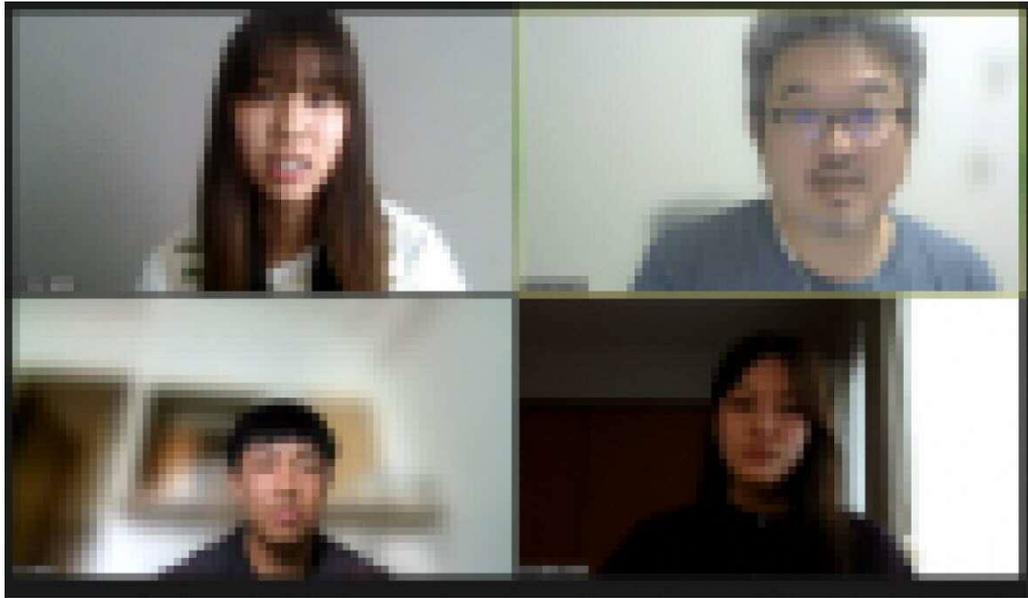


また、各チームにアドバイザーとして参加している北九州市立大学内田ゼミの鶴田 真唯（ツルタ マイ）さん、村上 愛華（ムラカミ アイカ）さん、土屋 大征（ツチヤ タイセイ）さんにもお話を伺いました。

3人に、ワークショップを終えての率直な感想を伺ったところ、「得るもの、学んでいることがとても多いです」と、口を揃えて言いました。北九州市立大学地域創生学群で実習として行われている、コミュニティFM局「FM KITAQ」でのラジオ番組制作実習での取材活動が大いに役立っているとの声も挙がりました。

チームのメンバーに北九州市のことをきちんと伝えられましたか？という問いには、「大学に入って1年半で経験したことをうまく伝えられたと思います」（土屋さん）、「市の『地元いちばん』というサイトでメンバーと一緒に調べました」（村上さん）、「北九州市にたくさんいる『ゆるキャラ』を使って特産品などの説明をしました」（鶴田さん）と、答えてくれました。

本番に向けての意気込みを尋ねたところ、土屋さんは「うちのチームは毎日ミーティングを重ねています。やるからには1位を目指します」、村上さんも「上位3チームに入って商品化を実現したいです」と力強く語ってくれました。また、鶴田さんは「上位を目指すのはもちろん、アドバイザーのごとう醤油さんにも喜んでもらえるような商品を作りたい」と意気込みを見せました。



各チームは、9月15日（木）に行われる「発表会」に向け、このあとも打ち合わせを重ねます。

発表会当日はチームごとにプレゼンテーションを実施。新規性、市場性、優位性、ストーリー性、そしてプレゼンカの5項目を基準に採点を行い、優秀作品（3チーム）を決定します。

優秀作品の中から実際に商品化を行い、東京都内での販売を計画しています。全10チームのうち、北九州都市圏域の食材を使った調味料の商品化を実現できるのはどのチームになるのでしょうか。結果がとても楽しみです。